

政務活動費調査研究報告書

会 派 名市民の会

氏 名大塚 正俊

日 程	令和 8 年 7 月 7 日（火）午後 1 時 30 分から 3 時 20 分
場 所	山形県朝日町朝日中学校スキマクラス
相 手 方	教育長 堀 俊一、朝日中学校校長 大宮 裕一、 地域振興サポート会社まよひが企画代表 佐藤 恒平
参加議員氏名	千木良孝之、大塚正俊、木佐貫佳子
用 務	行政視察「公立学校校舎内の民間事業者オフィスの併設、スキマクラス 2.5 組、『まよひが企画』の取り組み」
内 容	朝日町は、山形県の中央に位置し、行政面積 196.81 km²、人口 5,327 人の町です。 1. 公立学校校舎内の民間事業者オフィスの併設の取り組み 町立朝日中学校の生徒が行き交う校舎 2 階の空き教室（1 室）に、ビジネスを生み出すオフィスの一つ「スキマクラス 2.5 組」が設置されています。このオフィスは、地域と学校がつくるコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）としての役割も担っています。 中学校の空き教室を民間企業に賃貸するための手続きは、全国的にも前例がなく、町の教育委員会と議会が了承すれば可能と判断し、覚書を締結している。賃料は無料とする代わりに、教職員の授業のサポート、第 3 の居場所「スキマクラス 2.5」としての活用を条件としています。 2. スキマクラス 2.5 組の取り組み 学校でのオフィスの名前は、「スキマクラス 2.5 組」。「第 3 の居場所より 0.5 歩だけ学校に近寄った場所」という意味が込められています。 毎週 2 回（月・木）15 時以降、オフィスを生徒・先生が自由に自習室・フリースペースとして利用できる交流事業を実施しています。 部屋の中央には、高さ 2 メートルを超える回転式の本棚が配置され、周囲には、ボードゲームや電子キーボード、ランニングマシンなどが並ん

	でいます。廊下に面した水色の扉は、大きな窓と可動式の熱帯魚水槽が組み込まれていて、その隣には電子掲示板も並びます。 先生たちの相談にも随時対応しています。地域をテーマにした総合学習のカリキュラムを手掛けたり、美術の時間を受け持ったり、修学旅行に同行したり。先生のサポートもコミュニティ・スクールの一環として行うことで、教員の負担軽減につながっています。 3.『まよひが企画』の取り組み まよひが企画代表 佐藤 恒平さんは、2010年に地域おこし協力隊として朝日町情報交流アドバイザーに就任し、着ぐるみキャラクター「桃色ウサヒ」による朝日町のPR活動を始めます。現在も同町では関係人口人材との協業、義務教育学校の創設などの分野で地域振興プロジェクトを手掛けています。 2014年1月、地域振興コンサルティングとデザイン・企画の事業をおこなう地域振興サポート会社「まよひが企画（マヨイガキカク）」を開業しました。 2017年には、古民家をリノベーションした公設民営のゲストハウス「松本邸一農舎」を開業し、総務省の地域力創造アドバイザーに就任しています。 2022年5月より、朝日中学校の空き教室をサテライトオフィスとしながらコミュニティ・スクール「スキマクラス 2.5組」の活動を行っています。 4. 参考資料 ・まよひが企画 HP https://mayoiga-k.jp/ ・「スキマクラス 2.5組」とは https://drivemedia.etic.or.jp/65701/ ・「地域振興×デザイン」のポイントとは https://drivemedia.etic.or.jp/65717/
成 果	実際に教育活動を行っている公立中学校で、民間企業が空き教室を間借りすることは、これまでに例のない取り組みです。 過疎地域の中学校では、空き教室が活用されずもったいない状態になっています。また、教職員が忙しく、困りごとを外部の人に相談する時間を持てない等の声を聴きます。 施設使用にかかる覚書の使用目的では、「コミュニティビジネスのオフィスとして空き教室を利用することで、学校（生徒・先生）と地域活動との融和を促進し、地域振興や地元でのキャリア形成に未来を見いだせる人材の育成拠点としていくものである。」としており、その実践活動が教育長や校長に高く評価されています。 中津市においても、コミュニティ・スクールの取り組みにおける「地域学校協働活動」の一環として、業種は限られるとは思いますが、空き

	教室のサテライトオフィスとしての利活用と「スキマクラス 2.5 組」の取り組みを推進すべきと考えます。
--	---